

IEEE Student Branch Leadership Training Workshop (SBLTW) 2023 in Osaka

IEEE Tohoku University Student Branch Secretary : 山崎凜 (Day 1 report)

IEEE Kansai University Student Branch Chair: 豊岡祥太 (Day 2 report)

Abstract

2023 年 6 月 30 日 (金) から 7 月 1 日 (土) に、関西大学の千里山キャンパスにて、IEEE Japan Council Student Activities Committee (JC-SAC) と関西大学 SB の主導のもと、IEEE Student Branch Leadership Training Workshop (SBLTW) 2023 が開催された。

本イベントは、年に一回、全国の Student Branch (SB) の役員が一堂に会し、SB 活動の報告や運営についてディスカッションを行ったり、今後の SB イベント開催に向けたネットワーキングを行ったりする交流イベントである。本イベントでは毎年異なるコンテンツが用意され、今年の日玉はマンガプロジェクトをテーマにした大日本印刷株式会社様とのコラボ企画であった。

Program

Day1 : 2023 年 6 月 30 日(金) 関西大学千里山キャンパス 第4学舎3号館4階3401教室

13:00 - 13:20 Registration

13:20 - 13:30 Greetings / Self Introduction of SB Members / Agenda Confirmation

13:30 - 17:30 Student Activities Workshop co-organized with IEEE JC Manga project

18:00 - 19:30 Welcome Reception

Day2 : 2023 年 7 月 1 日(土) 関西大学千里山キャンパス 第4学舎3号館4階3401教室

09:00 - 09:30 Registration

09:30 - 10:20 Leadership Training (by JC SAC Chair)

10:30 - 12:00 Student Branch Activity Report / Discussion

12:00 - 12:10 Closing

Website

<https://sites.google.com/view/ieee-sbltw2023/>

参加 SB (及び設立検討中の大学)

参加 SB (18SB) : 会津大・青山学院大・大阪大・関西大・熊本大・信越支部・同志社大・東京大・東京電機大・東京農工大・東京理科大・東北大・徳島大・名古屋大・北海道大・明治大・室蘭工業大・早稲田大

設立検討中の大学 (3大学) : 岡山理科大・千葉大・千葉商科大

Day 1 Report

1. First impression

自分は昨年度の SBLTW 参加経験から、今回の SBLTW も楽しい思い出になるのではないかと、会場に着く前から参加がとても楽しみであった。

会場に入り、まず目に入ってきたのは企業パンフレットと IEEE グッズと昨年度のマンガコンテストの冊子であった。自身の就職活動は終えていたが、学生の頃から IPC を通じてたくさんの企業と接点を持たせて頂けていること、そして実際に働かれている方とこういった学外でお話できる機会を頂けていることの貴重さを改めて感じた。また、私自身もイベントに参加する度に少しずつコレクションしている IEEE グッズは、今回特に大人気でどのグッズもほぼ完売状態であった。私はその可愛さから赤の Mop Toppers くんを頂くことを即決し、今は研究室のデスクに置いている。



受付を行い、会場内を見渡すと、壁に貼られた各 SB の青いバナーが目に入り、約 7 か月ぶりの SB イベントに改めてワクワクし、「楽しむぞ」という気持ちのスイッチが入った。私が会場に到着した時点で、既にグッズである IEEE T シャツを着た SB メンバーが数多く集まっており、今年度は全国の 25 の SB から総勢 48 人集まったとのことで、始まる前から会場は和気あいあいとした雰囲気であった。これから始まる SBLTW を全員が楽しみにしている様子が伺えた。前回参加した人もいれば、今回初めて参加した人もおり、新たな交流・シナジーが生まれることに期待が高まった。



2. Student Activities Workshop co-organized with IEEE JC Manga project

今回のワークショップは、IEEE JC Manga project と大日本印刷株式会社様とのコラボ企画で、大日本印刷株式会社の下野様、金子様、作家先生の春日先生、小川先生がイベントを主催してくださった。普段の日常を彩ってくれる「マンガ」についてプロフェッショナル視点で講演して頂くパートと、グループワークのパートに分かれていた。

まず、前者のパートでは、マンガができるまでのプロセス、キャラクターへのこだわり、コミックス印刷の仕組み、マンガ業界の今、読者は知らない編集事情などを説明して頂き、私自身初めて知ることばかりで大変興味深い内容であった。



また、個人的には技術とマンガの交差点を知れたのは大変面白かった。マンガの制作過程や制作後のコンテンツ価値最大化の過程で工学的知見が求められている、そして実際に最新技術が活用されているということをお話頂き、意外性もあり非常に印象的であった。

参加者には技術的な研究を行っている方も多かったと思うが、大学での勉強や研究が産業に活かされ、人々の豊かさにつながっていく一例を拝見し、研究へのモチベーションが向上した人も多かったのではないと感じる。最新技術活用のための知見がこれほどまで多角的な分野に求められており、実際に知見を活用できた際には新しい当たり前を創出することに貢献できるというのは、技術を武器に活躍できる技術者・研究者の特権だと感じた。



ワークショップ内では、製本について知るために、実際に一人一人が手を動かす工作もあり、自らの体験を通してマンガへの理解を深めることができた。

次に後者のパートでは、初めに「脚本家のプロが教える言語化の方法」について伝授して頂いた。言語化にフォーカスされたこの講演は、普段の会話やプレゼンテーションにも活かせるような、勉強になることばかりであった。誰かに何かを伝えたいと思ったとき、その何かは何なのかを絞って明確化すること、そして伝えるのではなく伝わる話し方をすることが重要で、そのためには言語化能力を活用する必要がある、事象を説明できてこそ伝わるものが伝わるのである。この当たり前のことがわかっていなかったとハッとさせられた。

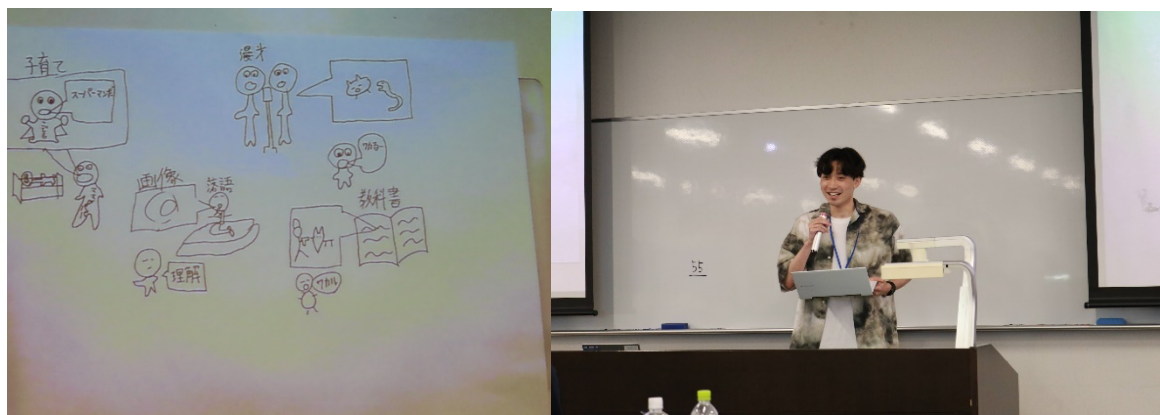
また、言葉の選び方という観点においても、ポジティブな「感情的に訴えかける言葉」を選ぶことで、相手の気持ちを動かし、行動のきっかけを与えることができるということ知り、自身の言葉選びを見直す契機となった。感情に訴えかけることで、上手な発表、人の心に響く発表となることを学んだため、実践にうつしていきたい。



加えて、「自分の長所を発揮しながら自分・他者・社会を物心良両面豊かにする」ことこそが仕事であるというのがとても印象に残った。私も来年から社会人になるが、自身の強みを把握し、それを活かせるフィールドに属しながら、社会に貢献していく姿勢というのを意識していきたいと思った。仕事としてやっていることに誇りを持ちながら、Well-being な人生を目指していきたい。



続いて、5～6人が1グループになって「自分の勉強（研究）している分野のココがスゴイ！！を言語化してください」というテーマでディスカッションを行った。ディスカッションでは、初対面のお互いの学生とグループとなり、各々の意見やアイデアを出し合った。このテーマには、日本人の言語化能力の乏しさとその育成の必要性が背景にあった。



今回のワークショップから派生したテーマが、今年のマンガストーリーコンテストに応募されるかもしれないと思うと今からとても楽しみである。

3. Welcome Reception

ワークショップ後、大学構内の別の場所に移動し、懇親会を行った。懇親会は、参加者全員で輪になり、関西大学 SB のカウンセラーの先生の乾杯の音頭で盛大に始まった。



美味しい豪華な料理が提供され、飲食を楽しみながら交流を深めた。大学や立場、ワークショップ時のグループの垣根を超えた交流が活発に行われ、非常に盛り上がっていたと感じている。お互いの SB 活動や、研究内容、就職活動等、ワークショップでは話し足りなかったことを、より密になって話し合うことができた。懇親会は特に、学外の方々とコミュニケーションをとれる貴重な機会であり、大変有意義な時間であった。また、話していくうちに今後の SB 活動のアイデアが生まれ、実現に向けて他大学 SB 同士で連絡先を交換している方々が多数いた。今後も持続的かつより活発的な SB 活動が行われていく予感がする。

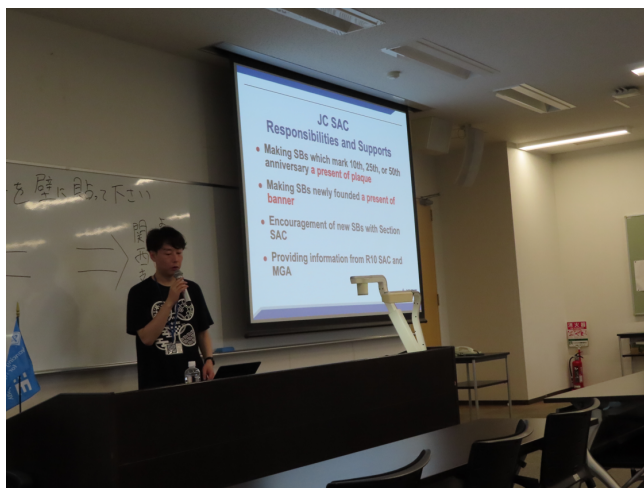
半日でありながらも、とても充実した SBLTW1 日目を終えることができた。



Day 2 Report

1. Leadership Training workshop

JC-SAC の小澤先生より、各 SB のための Leadership Training が開催されました。Student Branch を運営していくためのワークショップで、特に Event Reporting や活動支援費についてなどを詳細に説明していただきました。このワークショップは、SB の Officer の学生たちが円滑に SB の運営を行うための貴重な機会です。コロナ禍で引き継ぎが全くできていない SB もあるようなので、学生たちは熱心に小澤先生の説明を聞いている様子でした。



2. Student Branch Activity Report / Discussion

各 SB の活動や、SB メンバーの研究内容が記載されたポスターを掲示し、ディスカッションを行いました。前半は関西より東側の SB についてのポスター、後半は関西より西側の SB についてのポスター発表を通じて各 SB の交流をしています。各 SB によって様々な活動をしているのが報告されており、興味深いイベントや参考になるイベントなどが数多く報告されています。他大学の SB と研究内容について議論している様子も多く見聞きました。

このポスターセッションを通じて、遠方の大学間でのイベントなどの打ち合わせを行っている様子もありました。セッション外の SB メンバーと対面で話すことで、全国規模でのイベントを開催できるかもしれません。このポスターセッションではそのようなイベントの議論もできる重要な機会になっています。



3. Award Ceremony / Closing

IEEE SB では、設立 10,25,50 周年毎に記念のプラークが贈呈されます。今年は同志社大学が設立 10 周年、北海道大学が設立 25 周年、また東京工業大学が設立 25 周年のプラークを授与されました。



また、IEEE Japan Council Student Activities Award 2022 の受賞者の中から、今回の SBLTW に参加している東北大 SB の山崎さん、室蘭工大の Dong さん、関西大の豊岡が表彰されました。同様に、IEEE Japan Council Outstanding Student Branch Counselor Award 2022 の受賞者の中から、今回の SBLTW に参加している Mianxiong Dong 先生が表彰されました。本 Award は、2022 年の特に優れた IEEE JC SB での活動及びボランティアを行った方を対象に授与されます。特に最優秀賞の方はイベントを 20 数件も開催するなど、素晴らしい功績があります。自分たちの SB も積極的に活動していこうと感じました。



IEEE Japan Council Student Activities Award 2022 授与の様子



IEEE Japan Council Outstanding Student Branch Counselor Award 2022 授与の様子

SBLTW に参加しての感想

- 改めて、SB 活動の偉大さ、規模の大きさ、貴重さを感じた機会となった。学生のうちからこのような学会活動に関わりながら、学生、先生、企業の方など全国の幅広い方々とコミュニケーションをとれる機会はなかなかなく、私も SB に所属していなかったら経験することのなかったことだと思うと、そのありがたさを大いに感じた。と同時に、SB 活動そのものに誇りを持つことができ、2 日間を通して、素晴らしい時間を過ごすことができたと感じている。同じような研究分野の方や、全く異なる研究分野の方もいて、楽しみながら、そして刺激を頂きながら自分の興味の幅を広げることもできた。

また、参加前は新型コロナウイルス感染症の影響で引き継ぎがうまくいかず、何をして良いのかわからなくなってしまうといった悩みを抱える SB もたくさんあったが、SBLTW において SB 役員間の交流を行ったおかげで、悩みを共有しながら解決のヒントが見えたり、新しいアイデアの種が生まれたりしていた。そして SB 間の距離も縮まり、他 SB を自身の SB 活動に巻き込むハードルを下げることもできたと感じる。参加したことで、どの SB にもプラスの影響があったのではないかと考える。

新型コロナウイルス感染症による制約も落ち着きつつあるため、東北大学 SB としても今回できた全国の繋がりを大事にして、得たものを今後の活動に積極的に活かしていきたいと思う。最後にはなりますが、IEEE JC SAC、関西大学 SB をはじめとする運営の皆様、各大学 SB の皆様、この度は、大変貴重な機会に参加させて頂きまして誠にありがとうございました。前回に引き続き、対面で開催されましたこと、大変嬉しく思います。来年以降の開催も楽しみにしております。引き続き、何卒よろしくお願いいたします。(東北大 SB/JC SRS 山崎凜)

- SBLTW2023 に参加し、全国の SB メンバーと繋がる機会を多数得ることができました。特に SBLTW では、ワークショップを交えて交流することで SB メンバー同士が仲良くなり、また貴重な公演も聞くことが可能な素晴らしいイベントだと感じています。私自身、SBLTW2022 にも参加しており、その場で培った繋がりを活かしてセッション間を超えるイベントも複数開催できました。今年度も同様に、全国規模のイベントを開催する意欲に満ちています。

SBLTW に参加を通じて、全国の学生や教員の皆様、さらには企業の方々とのコネクションを持つことができ、一学生では経験できないような貴重な機会をいただいています。SBLTW の開催にご協力させていただいたこと、IEEE のメンバーになってよかったと心の底から思っています。来年度も是非参加したいと考えているので、全国の SB の皆様にお会いできる日を心待ちにしています。(関西大 SB 豊岡祥太)